

復旧のための地理空間情報（地図・写真図）の整備

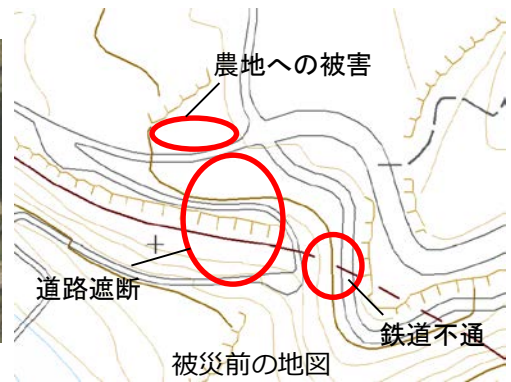
熊本地震では、広範囲にわたり土砂崩壊、地表亀裂が発生し、橋梁崩落や建物の倒壊等、甚大な被害が生じた。そのため地図も現況と合わなくなっている。これを改善し、今後の迅速な復旧に活用して頂くために、地震発生後に撮影した空中写真を用いて、現況を正確に反映した地図を整備する。あわせて、写真に等高線や地名などの情報を重ね合わせた写真図も整備する。応急対策や災害復旧事業を行う上で共通に利用できるこれらの地理空間情報を、地方公共団体等に提供する。

現況を反映した地理空間情報の整備

- ・土砂崩壊、地表亀裂、橋梁崩落等の被災及び仮設住宅の建設等により現地の状況は大きく変化している。
- ・その結果、応急復旧対策に必要な地図が現況と合わなくなっている。



熊本地震による被害状況（南阿蘇村）



被災前の地図

施策の内容

がれき集積地



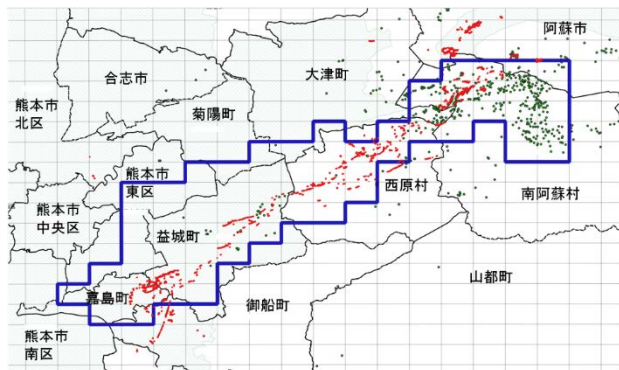
仮設住宅

東日本大震災の際に作成した地図



新潟県中越地震の際に作成した写真図

【整備予定地域】



図上の緑点は土砂崩壊地、赤線は地表亀裂分布を示す

【提供する地理空間情報】

- ① 1/2,500 応急復旧対策基図 …12月提供
- ② 1/2,500 応急復旧対策写真図 …9月提供
- ※上記二つについて簡易的な成果を迅速版として提供 …7月以降 随時提供

＜応急復旧対策基図＞…地形変化や仮設住宅建設など復旧対策上有用な現況情報を反映した地図
 ＜応急復旧対策写真図＞…地図に重ねることができるよう加工した写真に、等高線や公共施設名、地名等を上乗せたしたもの

効果

- ・被災地域における復旧計画立案への活用や応急復旧作業の効率的かつ効果的な実施
- ・位置の基準となる基盤地図情報等に利用し、国民が継続的に地理空間情報を利用することが可能